

豪日交流基金助成／オーストラリア学会主催

2009年度第四回 同志社大学 特別公開講演会
クリストス・ツィオルカス講演会

Lecture by Australian Novelist Christos Tsiolkas

小説家クリストス・ツィオルカス(Christos Tsiolkas)氏をお招きし、豪日交流基金助成／オーストラリア学会主催の特別公開講演会を開催いたします。ツィオルカス氏は本年度英連邦作家賞(東南アジア・南太平洋地域の小説部門)を受賞された注目作家。どなたでもご参加いただけますので、オーストラリアのみならず、英語文学の最先端、多文化主義、マイノリティからの視点などに興味をおもちの方はぜひご来場ください。

(尚、この講演会は、2009年9月17日(木曜日)に開催予定でしたが、講演者の都合により、延期されたものです。)

日時： 12月5日(土曜日) 13:00～16:00

場所： 同志社大学今出川校地 寒梅館大会議室(6階)

演題： オーストラリアン・サバービアー

グローバリゼーションの中の多様性と均質性

Australian Suburbia: Diversity and Homogeneity
in a Globalizing Society (通訳つき)

司会： 湊圭史(立命館大学講師)

コメンテーター： Dr David Gilbey(Charles Sturt University, NSW)
佐藤渉(立命館大学准教授)

参加費： 無料(どなたでもご参加いただけます)

問い合わせ先： 有満保江 <yarimitu@mail.doshisha.ac.jp>

(アクセスマップ) http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html

* 京都市地下鉄今出川駅下車②番出口より徒歩1分

〈クリストス・ツィオルカス Christos Tsiolkas (b.1965)〉

メルボルンのギリシャ系の家庭に生まれ、メルボルン郊外で育つ。ギリシャ系ホモセクシャルの若者の苦悩を描いた第一作 *Loaded* (1995)は映画化され、世界中の映画祭で高い評価を受ける(映画タイトルは *Head On* (1998))。 *Dead Europe* (2005) で2006年度の『エイジ』紙が選ぶ The Age Book of the Year fiction awardを受賞。2009年には、 *The Slap* (2008)が英連邦作家賞(東南アジア・南太平洋地域の小説部門)に選ばれる。劇作家としても活躍、作曲家と他の3人の作家と共作した *Who's Afraid of the Working Class?* (1999)でオーストラリア作家ギルド最高賞を獲得している。



〈 作家による自己紹介 〉

私は冷戦時代にオーストラリアのメルボルンに生まれ、作家になりたいと自覚したのは八年生のとき、英語の教師が私の創作の課題を掲げて「不潔」と宣言した瞬間だった。私は死にも狂いで郊外の暮らしから逃げだそうとしたのだが、しばらくすると、郊外から少年を連れだすことはできたとしても、少年の内面から郊外を取り去ることは必ずしも可能ではないのに気付かされた。私の小説・短編・戯曲はすべて、オーストラリアの郊外の風景にある亀裂や暗部を探索して、あわよくば、くすんだ金髪で青い目のアーリア人としてのこの南の大陸の肖像に、でっかくて醜いカイゼルひげを殴り描きしてやろうとする試みである。私は女性嫌悪者、人種差別主義者、同性愛嫌悪者、ポルノ作家、流聖者、成り上がりの下品な気どり屋などと責められてきた。他にも、政治的正しさにハマってるだとか、時代錯誤の社会主義者だとか、隠れプロテスタント(これには私の母が激怒したものだ)だとか、晩餐会でとなりに座るといいやつだなどといった非難もあった。私はもうひとり「別の」クリストス・ツイオルカスが存在するのでは、そしてある日フィリップ・K・ディック風のワームホールを抜けて、まったく未知の存在としての私自身に出くわすのではないかと怯えながら暮らしている。

<http://www.smartartists.com.au/artists/chris-tsiolkas.php>

〈 クリストス・ツイオルカス作品紹介 〉

Loaded. Milsons Point, NSW: Vintage, 1995.

メルボルンに住むギリシャ系労働者の息子アーリは、ゲイとしてのセクシュアリティを周囲に受け入れてもらえず、すぐに主流社会に同化していくゲイの友人たちにも違和感を抱きながら、ドラッグに溺れて暮らしている。ショーンという若者と知り合って運命的な出会いだと感じるが、ある日、二人が警官を軽くからかったことから悪夢のような体験をすることになる……。各国の映画祭で新しいタイプのゲイ映画として注目を浴びた『ヘッド・オン!』(アナ・コッキノス監督、1998)の原作。

Dead Europe. Milsons Point, NSW: Vintage, 2005.

オーストラリア生まれの芸術写真家アイザックは、ギリシャ系ディアスポラの業績を称えるためのイベントのためアテネに招かれる。母方の系譜をたどりある村を訪ねると自分の家系が呪われているということを告げられ、彼の撮った写真にもそこにははずがない少年の姿が写りこむ。ちょうどその一世紀ほど前、アイザックの祖母ルシアは世界一の美女として評判であった……。物語は現在のアイザックとルシアから始まる家族の過去の歴史をぬって、二〇世紀ヨーロッパの暗部を描きだしていく。

The Slap. Crows Nest, N.S.W. : Allen & Unwin, 2008.

ある郊外で開かれたバーベキュー・パーティーのおり、ギリシャ系の企業家ハリーは別のゲストの息子であるヒューゴを叩いてしまう……。事件の場に居合わせた8人の語りによって事件とその顛末が語られることで、ポスト多文化主義政策のオーストラリアの郊外における、さまざまな世代・人種・階級の人物たちの欲望や偏見が明らかになっていく。2009年度英連邦作家賞受賞作。

他に、*Jump Cuts* (Sasha Soldatow と共著、1996)、*The Jesus Man* (1999)。戯曲に、*Who's Afraid of the Working Class?* (1999)、*Elektra AD* (1999)、*Viewing Blue Poles* (2000)、*Non Parlo di Salo* (2005)、など。映画評論として、*The Devil's Playground* (2002)。